

2019年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」




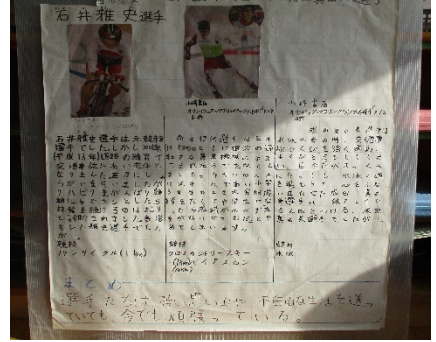
事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 大牟田市 】

学校名【 大牟田市立天領小学校 】

1 実践テーマ	① ② ③ ・ IV ・ V（複数選択可）
2 実施対象者 (学年・人数)	第5学年 73名
3 展開の形式	<p>(1) 学校における活動</p> <p>① 教科名 (総合的な学習の時間)</p> <p>② 行事名 (パラリンピアンとの交流)</p> <p>③ その他 ()</p> <p>(2) 地域における活動</p> <p>① イベント名 ()</p> <p>② その他 ()</p>
4 目標 (ねらい)	オリンピック・パラリンピックの意義や価値とスポーツ文化の国際的な役割について理解を深めさせ、大会を支える人材の育成と大会成功のために、自分たちができることを見つけて実践する。
5 取組内容	<p>【事前学習：行事「オリ・パラ選手との交流」を想起】</p> <p>これまでに会ったオリンピック選手やパラリンピック選手との交流をふり返り、2020年のオリンピックは選手だけで開催できるかを考える。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p>【本時：「つながろう つなげよう 東京2020」】</p> <p>交流してきた選手の生き方やオリ・パラにかける思いをもとに、オリ・パラを成功させるためにたくさんの人や企業が関わっていることを知り、自分たちにできることを考える。</p> <p>○ 話し合う・関わる</p> <p>オリンピックを支える側である、スポンサーの役割やボランティアの方達の活動内容など、調べたことや考えをグループごとに伝える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【各グループのテーマ】</p> <p>・スポンサーである企業 ・ボランティア内容、体験記</p> </div>

	<p><ペアグループでの発表></p>    
<p>6 主な成果</p>	<p>○ オリ・パラの教材化 これまでの学習ではオリ・パラの「する・見る・支える」の「する」側の選手に焦点を当てていたが、今回「支える」側という新たな視点で教材を開発することができた。</p> <p>○ 児童の様子 協賛しているスポンサーや企業を調べる活動を通して、「街中で〇〇を見ました。」「ペットボトルにマークがついている。」等、身の回りに関心を持ち、たくさんの企業が関わっていることに気づく様子が見られた。</p>
<p>7実践において工夫した点(事業の特色)</p>	<p>オリンピック・パラリンピックの招致をした際の映像を見せ、「おもてなし」とは何だろう……という疑問からオリンピック・パラリンピックに参加するのは選手だけでなく、「支える」という関わり方もあるということを捉えさせたこと。</p>
<p>8主な課題等</p>	<p>「支える」という視点での実践の幅を広げるために、年間指導計画に今回の実践をどのように位置づけ、「する」「見る」「支える」の関係性を持たせて実践を積み重ねていくかが大きな課題である。</p> <p>企業等の協賛は、児童には難しい面もあるので、映像や実物、写真など、視覚的に分かるような教材の工夫をする必要がある。</p>
<p>9来年度以降の実施予定</p>	<p>本年度に開発した「支える」視点でのオリ・パラ教材を、5年生での年間指導計画に位置づけ、今後の継続的・発展的な学習へとつなげていきたい。また、「する」「見る」「支える」との関係性や学年の系統性を持って進めていきたい。</p>